

市原高校に対するご意見

番号	日付	生徒にとって望ましい学びの環境とは。	生徒にとって活力のある教育活動を維持するためにはどうすればよいか。	1で回答した高等学校に関して記述してください。（自由回答）	備考
1	2024/6/25	・3年間1/3日(それ以上?)を過ごす場としての快適さ(例えば、清潔なトイレ。全室冷暖房。使いやすい備品や設備。ICT機器。食堂、なければ昼休みは、校外の食堂利用可など...)。 ・教職員の情熱や質、(教えてくれる＝分かる授業、信頼できる、頼れる、親身になってくれる、etc.) ・いじめやハラスメントが無い。あるいは、早期発見し適切な対応をしてくれる。 ・自己肯定感を持てる。将来に希望が持てる。 ・登下校の安全と利便性	・施設設備の充実 ・主体的に学べる機会の保障 ・体験的な学びの充実 ・達成感や自己達成感を実感できる教育活動 ・個々に応じた丁寧な進路指導とキャリア教育	・伝統と実績があり、この地域になくてはならない学校である。少子化により生徒が減少⇒統廃合で学校を減らす⇒通いやすい距離に学校が無い⇒さらに少子化・過疎化が進む⇒少子化によりさらに生徒が減る。⇒・・・まさに悪循環。教育に金をかけることを惜しまず、少人数のメリットを最大限に生かすという発想の転換が必要なのでは?・・・県全体で考えるべきことだと思います。 ・長寿命化の工事をチャンスと捉え、単なる改修に終わらずに魅力ある学校にリニューアルするための知恵と金を費やして、起死回生を図ってほしい。	Forms
2	2024/7/1	・通いやすく、行く目的がしっかり持てる学校 ・勉強が分かることが大前提		・市原高校の比較的近くに位置する中学校長です。現在市原高校では近隣の3～4中学校出身の生徒が大半を占める。進路選択の現状は、本校の目の前から君津学園、紅陵学院、東海大市原望洋、翔環等、多くの私立高校のスクールバスが発着しているため、中学生や保護者は通学の利便性に希望が大きく、本来市原高校で学んだ方が合っていると思われる生徒も多くが私学に流れる傾向にある。近隣の他中学でも同様だと思う。生徒を本気で集めたいのであれば、一つは公立高校ではあるが、補助を出して五井駅から学校までバスを出せば上記近隣中学校以外からも生徒を取り込めるはず。そしてもう一つは、人数は少ないがいくつか強化指定部活動を設置し、根気強く中学校に周知していく必要があると感じる。部活動があるかないかで選ぶ生徒は今でも多い。学校の様子がなかなか中学校に伝わっていない。	Forms
3	2024/7/1	・高等学校卒業後の就職につながる技能・資格の習得	・企業等との連携授業 中学校との情報共有(出前授業等)	・通学の利便性の改善は必須(スクールバスの運用)	Forms
4	2024/7/1	・学習環境(ICT設備)や健康管理(エアコン設備)など、時代に合った活動環境の整備・構築	・特色をどのように出すか、生徒や保護者、地域ニーズを把握する。卒業後の進路選択に有意義にはたらくコース設定	・中高一貫教育校(中等教育学校の検討)	Forms
5	2024/7/1	・卒業後の生き方につながる意義のあるカリキュラムと、受け身でない自ら学ぼうとする雰囲気、校風が必要。	・探求につながる仕掛け。座学、定期テストによる縛りも大切だが、動きがある活動により、一人一人の良さが、のびたり、更なる深い学びにつながるのではないかな。	・登下校の手段に限られるので、スクールバスのなものや、交通費補助などが、あるとよい。 ・少子化が進むなか、大学進学や就職、三年間の部活動など、他の公立や私立高校に比べると、ますます難しい状況になるのではないかな。	Forms
6	2024/7/1	・生徒個別の興味関心、進路希望等に応じた多様な学びのできる環境 ・生徒一人一人が生き生きと活動、活躍のできる環境	・生徒一人一人の多様なニーズに対応している教育活動、環境の提供 ・生徒一人一人が生き生きと活動、活躍のできる場の提供	・地域とのつながりが強く、地域における高校教育の機会の確保と地域活性化の観点からは存続を望むところである。特に、市原高校がなくなると町は衰退が一層進むと推測される。 ・存続への方法の一案として、可能かどうかはわかりませんが、通信制のニーズが高まっていることから、通信制と通学を併用したタイプの学校に再編していくなどはないかながよいのではなか。	Forms
7	2024/7/1	・生徒のために一生懸命に教える意欲のある教員がたくさんいる環境 ・生徒のために親身になって寄り添ってくれる教員がたくさんいる環境 ・お互いが切磋琢磨して支え合える仲間がいる環境 ・インフラの整備も含めて学校生活がしやすい環境 ・明日も学校に行きたいと希望を持てる環境	・学校職員が工夫して楽しい学校を作る。 ・組織として同じ方向を向いた教育を行う。 ・子どもたちが自分の学校に誇りを持てるような施策を行う。	・千葉高校の市原分校とし、千葉高校の募集人数を増やして、2クラス分を市原分校の生徒にする(市原へ通う)。もう2クラスは市原高校生とする。 ・中学と連携し、中高一貫教育校にする。 ・中学時代に不登校だった生徒や養育手帳のない特別支援教室に通っている生徒を1～2クラス分募集する。 ・交通の便が良くなり交通費が安くなればもう少し募集も増えると思う。	Forms
8	2024/7/4	・学校規模(教員配置)が適正であること。施設設備の充実。通学のしやすさ。	・コミュニケーション能力を高めることを目的とした教育計画を立てる。(体育祭、学園祭、体験活動等学校行事の活用)	・生徒数は減少しているが、生徒一人一人が生き生きと学校生活を送ることができるよう教育課程が工夫されており、温かい学校教育が実施されている。また、地域に根ざし、市内の小中学校等とも連携を深めている。通学について、小湊鉄道料金も高額であり、他地区からの生徒を確保することが困難であると考えてる。市内他地区や市外からの生徒も通いやすくするため、姉崎、五井、八幡宿駅等からのスクールバスの運行を希望する。	Forms
9	2025/2/2	・選択肢の多さ、交通の便の良さ	・制服、部活、距離、周辺地域との関係		Forms
10	2025/2/2	・駅から学校が近い ・冷暖房設備が整っている ・フォローが手厚い	・部活動が盛ん ・体育祭や文化祭などのイベントがしっかりといて盛り上がっている	・制服が可愛ければ人が集まると思います。	Forms

市原高校に対するご意見

番号	日付	生徒にとって望ましい学びの環境とは。	生徒にとって活力のある教育活動を維持するためには どうすればよいか。	1で回答した高等学校に関して記述してください。(自由回答)	備考
11	2025/3/2	・通いやすい。 ・自分の夢を見つけることができる。 ・設備の清潔さ。便利さ。	・設備や施設の充実。 ・部活動や進路指導など専門的な指導員の配置	・長い歴史があり、ステキな学校なのに生徒数の減少とても悲しいです。 ・校門前に私立のスクールバスが止まり大勢の生徒を乗せていくところをみると切なくなります。通学が不便を逆にとり、バイクで通学しその整備もできるような工業系学科やものづくりを学び職人のような将来を考えられる「何か」をしてほしい。	Forms